

「センター運用分科会」講評

CAUA 運営委員・センター運用分科会担当（麗澤大学）

大塚秀治

センター部門の運用技術に関する研究は本アカデミックユーザ会において重要な役割を持つものであって、システム構築から日常運用に関わる技術的な内容を当分科会では扱うことになる。第1回目の分科会では、「SunRay1によるコンピュータ教室の運用」、「レイヤ4スイッチングハブを用いた教育・研究用ネットワークシステムの構築」、「情報センターの機能と将来」の3件の発表があった。

「SunRay1によるコンピュータ教室の運用」は湘南工科大学の運用事例で、後藤宣之先生が発表された。ファットサーバ・シンクライアントモデルに基づくTCOへの配慮が見られる設計となっているシステムの運用上の利点や問題点が議論された。

「レイヤ4スイッチングハブを用いた教育・研究用ネットワークシステムの構築」は、大阪工業大学の倉前宏行・島野頭継先生の報告で、大学センター部門システムと学部システムの連携を図りつつ、運用コストを押さえるための設計方法が紹介された。また、このシステムについての利点等について多くの質疑が交わされた。

最後の、「情報センターの機能と将来」は麗澤大学の牧野晋先生の発表で、大学の情報センター部門が持つべき機能と運用方法が紹介され、さらに将来の情報センター部門のあり方についてのビジョンが示された。運用部門をアウトソーシングしながらも、一定の技術レベルを蓄積することの重要性が示唆された。

第1回から、会場からの質疑も活発であり、時間が許せばさらに多くの議論が行なわれたものと思われるが、残念ながら十分な時間を確保できなかった点は、センター部門分科会担当幹事として反省すべき点である。

当分科会は次回も議論が期待される。更に多くの運用担当者・技術担当者に参加して頂ければと思う。